

# 平成22年度 東山魁夷館開館20周年記念展

## 第I期 白い馬の見える風景

会期:2010年7月15日(木)～9月28日(火)

休館日:8月25日、9月の毎週水曜日



東山魁夷<白馬の森>1972年

「あの馬は何を表わすのですか」とよく、人が私に聞きます。私にとっては、そこにやはり必然的に動機があったと思っています。白い馬はこんども私の心の切実な祈りを表していたのです。しかし私はいつも「それは見る人の自由ですよ」と答えていました。

「絵になる時」(東京国立近代美術館における講演 1981年8月21日)、  
『美と遍歴』(芸術新聞社1997年)所収



東山魁夷館  
開館20周年

No.	作品名	分類	制作年	取材地	所蔵
中国風景					
1	頤和園にて	スケッチ	1943年	中国	長野県信濃美術館 東山魁夷館
2	承德の春	スケッチ	1943年	中国	長野県信濃美術館 東山魁夷館
3	町角	スケッチ	1943年	中国	長野県信濃美術館 東山魁夷館
4	喇嘛搭	スケッチ	1943年	中国	長野県信濃美術館 東山魁夷館
5	古北口にて	スケッチ	1943年	中国	長野県信濃美術館 東山魁夷館
6	長城を望む	スケッチ	1943年	中国	長野県信濃美術館 東山魁夷館
7	承德所見 A	スケッチ	1943年	中国	長野県信濃美術館 東山魁夷館
8	承德所見 B	スケッチ	1943年	中国	長野県信濃美術館 東山魁夷館
9	承德所見 C	スケッチ	1943年	中国	長野県信濃美術館 東山魁夷館
10	承德所見 D	スケッチ	1943年	中国	長野県信濃美術館 東山魁夷館
11	承德所見 E	スケッチ	1943年	中国	長野県信濃美術館 東山魁夷館

### 初期・馬を描く

12	水辺放牧	本制作	1946年	青森県八戸市、種差海岸	日本中央競馬会 中山競馬場
13	夕風	本制作	1949年頃 加筆1980年頃	青森県八戸市、種差海岸	香川県立東山魁夷せとうち美術館

### ドイツ・オーストリアの旅

14	古いガラス絵	スケッチ	1969年	ドイツ、ツェレ	長野県信濃美術館 東山魁夷館
15	ネルトリンゲンの町	スケッチ	1969年	ドイツ、ネルトリンゲン	長野県信濃美術館 東山魁夷館
16	白馬亭	スケッチ	1969年	オーストリア、メルン	長野県信濃美術館 東山魁夷館
17	フライブルクにて	スケッチ	1969年	ドイツ、フライブルク	長野県信濃美術館 東山魁夷館

### 連作・白い馬の見える風景

18	早春の丘	習作(*2)	1972年	山梨県御坂町-河口湖町、御坂峠	長野県信濃美術館 東山魁夷館
19	水辺の朝	本制作(*2)	1972年	ドイツ北部、オイティーン	長野県信濃美術館 東山魁夷館
20	水辺の朝	習作	1972年	ドイツ北部、オイティーン	長野県信濃美術館 東山魁夷館
21	草青む	習作	1972年	デンマーク、ヒレロード	長野県信濃美術館 東山魁夷館
22	夕明り	習作	1972年	長野県諏訪市、八島湿原	長野県信濃美術館 東山魁夷館
23	緑響く	本制作(*1)	1982年	長野県茅野市、蓼科高原 御射鹿池	長野県信濃美術館 東山魁夷館
24	緑響く	習作	1972年	長野県茅野市、蓼科高原 御射鹿池	長野県信濃美術館 東山魁夷館
25	春を呼ぶ丘	習作	1972年	北海道	長野県信濃美術館 東山魁夷館
26	若葉の季節	本制作(*2)	1972年	ドイツ北部	
27	渚の白馬	習作	1972年	石川県羽咋市、千里浜海岸	長野県信濃美術館 東山魁夷館
28	森装う	習作	1972年	長野県長野市戸隠村	長野県信濃美術館 東山魁夷館
29	湖澄む	習作	1972年	ドイツ、オーバー・ゼー	長野県信濃美術館 東山魁夷館
30	芒野	習作(*2)	1972年	ヨーロッパ	長野県信濃美術館 東山魁夷館
31	樹霊	習作(*2)	1972年	山梨県	長野県信濃美術館 東山魁夷館
32	白馬の森	小下図	1972年	富士山五合目のブナ原生林	長野県信濃美術館 東山魁夷館
33	白馬の森	本制作(*2)	1972年	富士山五合目のブナ原生林	長野県信濃美術館 東山魁夷館
34	白馬の森	習作	1972年	富士山五合目のブナ原生林	長野県信濃美術館 東山魁夷館
35	曠野	習作(*2)	1972年	山梨県	長野県信濃美術館 東山魁夷館
36	荒寥	習作(*2)	1972年	山梨県御坂町、川口湖畔 御坂峠	長野県信濃美術館 東山魁夷館
37	綿雲	習作(*2)	1972年	山梨県	長野県信濃美術館 東山魁夷館

(\*1) 展示期間: <<緑響く>> 本制作7月15日～8月8日 / ピエゾグラフ8月9日～9月21日 / 本制作9月23日～9月28日

(\*2) 1973年「白い馬の見える風景展」出品作品

初期と晩年の作品

38	祭りの夜	本制作	1929年	東京都、靖国神社	長野県信濃美術館 東山魁夷館
39	月光	本制作	1998年	山形県山形市、蔵王	香川県立東山魁夷せとうち美術館
40	冬の旅	本制作(*3)	1989年	秋田県鹿角市、湯瀬	長野県信濃美術館 東山魁夷館

(\*3) 展示期間: <<冬の旅>> 本制作9月23日～9月28日

第1期唐招提寺御影堂障壁画のための準備作

41	山雲	「山」スケッチ	1973年		長野県信濃美術館 東山魁夷館
42	瀧の音	「山」スケッチ	1973年		長野県信濃美術館 東山魁夷館
43	朝雲	「山」スケッチ	1973年		長野県信濃美術館 東山魁夷館
44	潮騒	「海」スケッチ	1973年		長野県信濃美術館 東山魁夷館
45	松濤	「山」スケッチ	1973年		長野県信濃美術館 東山魁夷館
46	渚の波紋	「海」スケッチ	1973年		長野県信濃美術館 東山魁夷館
47	山雲 中下図	「山雲」中下図1/5	1973年		長野県信濃美術館 東山魁夷館
48	濤声 割出図	「濤声」割出図1/5	1973年		長野県信濃美術館 東山魁夷館

天山遙か

49	天山遙か	スケッチ	1977年	中国	長野県信濃美術館 東山魁夷館
50	草原放牧	スケッチ	1977年	中国	長野県信濃美術館 東山魁夷館
51	競馬場に向う人々	スケッチ	1977年	中国	長野県信濃美術館 東山魁夷館
52	男女の馬競べ	スケッチ	1977年	中国	長野県信濃美術館 東山魁夷館
53	セリム湖にて	スケッチ	1977年	中国	長野県信濃美術館 東山魁夷館
54	セリム湖畔	スケッチ	1977年	中国	長野県信濃美術館 東山魁夷館
55	セリム湖月夜	スケッチ	1977年	中国	長野県信濃美術館 東山魁夷館
56	パオの子供	スケッチ	1977年	中国	長野県信濃美術館 東山魁夷館
57	カザフ族の少女達	スケッチ	1977年	中国	長野県信濃美術館 東山魁夷館
58	帰路につく人々	スケッチ	1977年	中国	長野県信濃美術館 東山魁夷館
59	ぶどう棚の下で	スケッチ	1977年	中国	長野県信濃美術館 東山魁夷館
60	交河城址	スケッチ	1977年	中国	長野県信濃美術館 東山魁夷館
61	黄昏	スケッチ	1977年	中国	長野県信濃美術館 東山魁夷館
62	天山の印象A	スケッチ	1977年	中国	長野県信濃美術館 東山魁夷館
63	家路	スケッチ	1977年	中国	長野県信濃美術館 東山魁夷館
64	ホータン所見	スケッチ	1977年	中国	長野県信濃美術館 東山魁夷館
65	砂漠を往く	スケッチ	1977年	中国	長野県信濃美術館 東山魁夷館
66	夕映	スケッチ	1977年	中国	長野県信濃美術館 東山魁夷館

ピエゾグラフによる代表作

67	黄山雨過	ピエゾグラフ	本制作 1978年	中国、黄山	長野県信濃美術館 東山魁夷館
68	行く秋	ピエゾグラフ	本制作 1990年	ドイツ、北部	長野県信濃美術館 東山魁夷館

\*展示作品は都合により変更となる場合があります。

ピエゾグラフとは

ピエゾグラフとは、セイコーエプソン(株)のインクジェットプリントの技術の総称で、再現性の高さで繊細な仕上がりが特徴です。原画の表面の凹凸や陰影、絵具の重なりまで再現可能です。

日本画は特に保存が難しい美術作品です。長野県信濃美術館 東山魁夷館の東山作品も将来に遺すために公開期間を年約2ヶ月に制限しています。一年をとおして東山魁夷の代表作をお楽しみいただくため、当館では東山すみ夫人監修のもと、セイコーエプソン(株)のご協力により、ピエゾグラフ作品をご寄贈いただきました。

\*ピエゾグラフおよびエプソンピエゾグラフは、セイコーエプソン株式会社の登録商標です。

東山魁夷(ひがしやまかいい) 略歴

明治41年(1908)横浜に生まれ、3歳のとき神戸にうつる。東京美術学校日本画科を卒業。昭和8年(1933)ドイツに留学。日展に出品をつづけ、22年(1947)特選受賞。31年(1956)日本芸術院賞受賞。40年(1965)日本芸術院会員となる。44年(1969)文化勲章受章。皇居新宮殿壁画、唐招提寺御影堂障壁画を制作。平成11年(1999)5月6日逝去。享年90歳。

東山魁夷館

東山魁夷は信州について、東京美術学校の学生時代から、信州へのスケッチ旅行を重ね、「わたしの作品を育ててくれた故郷」と呼んでいました。平成2年(1990)、長野県に家蔵の本制作、スケッチ、習作、下図等が寄贈され、長野県信濃美術館に併設して東山魁夷館が開館しました。(収蔵作品は現在約960点)

作品の分類について

「本制作」:主に展覧会への出品を前提に日本画の岩絵の具で描かれたもので、当館収蔵の作品は1970年代から晩年にいたる作品が中心となっています。

「スケッチ」「習作」:東山魁夷自身による分類で、スケッチが実景の写生であるのに対し、習作は構図や色彩により作者なりの解釈をほどこしたもので、内容的には本制作に一步近づいたものといえるでしょう。